報道関係者各位

2024年　8月　1日

みんぱく創設50周年記念企画展

客家と日本――華僑華人がつむぐ、もうひとつの東アジア関係史

A Thematic Exhibition for the 50th Anniversary of the Museum's Founding
Hakka and Japan: Another History of East Asian Relations Created by Chinese Overseas

2024年9月5日(木)～12月3日(火)

国立民族学博物館(大阪府吹田市千里万博公園10-1)では、みんぱく創設50周年記念企画展「客家(はっか)と日本――華僑華人がつむぐ、もうひとつの東アジア関係史」を2024年9月5日(木)から12月3日(火)まで開催します。

1930 年代の台湾における客家の夫婦
(出典『台湾写真帖』、南天書局提供)

展覧会について

華僑華人の一派に客家と呼ばれる人びとがいます。客家は、世界各地に居住し、政治・経済・文化など各方面で成功を収めてきたため、中国地域では「東洋のユダヤ人」と呼ばれることもあります。19世紀後半以降、客家は日本と密接な関係を築きあげてきました。特に1895年に日本が台湾を植民地とすると、台湾の客家にとって日本は身近な存在になります。また、一部の客家は台湾などから日本へ移住し、団体をつくり、生活を営んでいます。客家と日本の関係に焦点を当てることで、これまであまり知られることのなかった東アジア関係史の一面を探ります。

本展の見どころ

・華僑華人の多様性を知る

華僑華人は一つのグループと認識されることがありますが、実際にはルーツ、言語、文化によるさまざまな集団に分かれており、それぞれが独自の団体をつくりあげています。本展は、華僑華人の一派である客家をとりあげ、その歴史・文化やさまざまな活動を知っていただくことをテーマとしています。

・「知られざる」東アジアの関係性を知る

日本と中国地域との関係史において、客家は時として重要な役割を果たしてきました。日本と中国地域が友好的な関係を結ぶとき、逆に日本軍の侵略に抵抗する時、客家はしばしば歴史の表舞台に立ってきました。日本ではあまり知られることのない東アジア関係史を、客家という切り口から見つめ直しています。

・日本統治期の台湾を見つめ直す

日本に在住する客家の大多数は台湾の出身です。日本で台湾ルーツの客家が多い理由は、かつての日本の植民地統治に由来しています。本展は、日本在住の客家の団体組織や生活文化だけでなく、客家が移住する前の植民地期の台湾についても多く触れています。台湾から当時の痕跡を知るさまざまな資料を借用しており、台湾と日本のつながりに関心をもつ方々にも楽しんでいただける展示を目指しています。

展示構成

※コーナー名は後日変更になることがあります。

第 1 部　客家イメージ
第 2 部　広東・福建客家と日本
第 3 部　台湾客家と日本（1895-1945）
第 4 部　日本の客家団体
第 5 部　日本に住む、日本からつながる

資料点数

標本資料等：約162点

プロジェクトリーダー　奈良 雅史（国立民族学博物館准教授）

超域フィールド科学研究部・准教授。 1982年、北海道生まれ。 2014年、筑波大学大学院人文社会科学研究科博士課程修了。博士(文学)。 専門は文化人類学。宗教、モビリティ、エスニシティを主要な研究テーマとする。中国南部(主に雲南省、浙江省)ならびに台湾において回族をはじめとするムスリム・マイノリティを中心とした調査を行なっている。[主要著作]「動きのなかの自律性：現代中国における回族のインフォーマルな宗教活動の事例から」(『文化人類学』80号3巻、2015年)、『多元化する台湾のムスリム・コミュニティ』(編著、上智大学イスラーム研究センター、2021年)。

【プロジェクトメンバー】

小野林太郎（国立民族学博物館教授）
河合洋尚（東京都立大学准教授）
韓敏（国立民族学博物館教授）
小林宏至（山口大学准教授）
野林厚志（国立民族学博物館教授）
范智盈（大阪大学人文学研究科招へい研究員）
横田浩一（人間文化研究機構人間文化研究創発センター研究員）

【協力者】

周子秋（全日本崇正会聯合総会会長）
城正徳（日本客家関西崇正会前会長）

開催概要

展覧会名	みんぱく創設 50 周年記念企画展 「客家と日本――華僑華人がつむぐ、もうひとつの東アジア関係史」 A Thematic Exhibition for the 50th Anniversary of the Museum's Founding Hakka and Japan: Another History of East Asian Relations Created by Chinese Overseas
会期	2024年9月5日(木)～2024年12月3日(火)
会場	国立民族学博物館(大阪府吹田市千里万博公園 10-1) 本館企画展示場
開館時間	10:00～17:00(入館は 16:30 まで)
休館日	水曜日
観覧料	一般580円(490円)、大学生250円(200円)、高校生以下無料 ※（）は20名以上の団体料金/リピーターは団体料金を適用 ※本館展示もご覧いただけます
主催	国立民族学博物館
共催	客家文化発展センター(台湾)
特別協力	東京都立大学 社会人類学教室
協賛	NIHU グローバル地域研究プログラム海域アジア・オセアニア研究プロジェクト 特別研究班「日本の客家」
協力	全日本崇正会聯合総会、公益財団法人千里文化財団
後援	東京客家崇正公会、関東崇正会、名古屋崇正会、日本客家関西崇正会、沖縄崇正会

関連イベント

■みんぱく映画会

「一八九五」

会　　場	国立民族学博物館 みんぱくインテリジェントホール(講堂)
日　　時	9月8日(日)13:30～16:15(開場13:00)
司　　会	奈良雅史（国立民族学博物館准教授）
解　　説	河合洋尚（東京都立大学准教授）
定　　員	350 名
参加方法	事前申込制(先着順)/要展示観覧券(一般 580円)※イベント参加費は不要
内　　容	日本による植民地化が始まる1895年の台湾を舞台に、客家をはじめとする台湾住民が日本軍に抵抗した状況が、当時軍医として現地に滞在していた若き文豪・森鴎外の視点で語られていきます。

映画「一八九五」

■みんぱくゼミナール

「客家民居と日本」

会　　場	国立民族学博物館 みんぱくインテリジェントホール(講堂)
日　　時	10月19日(土)13:30～15:00(開場13:00)
講　　師	河合洋尚（東京都立大学准教授） 小林宏至（山口大学准教授） 奈良雅史（国立民族学博物館准教授）
定　　員	400名
参加方法	事前申込制(先着順)/参加無料
内　　容	客家の伝統的な住まいは、福建省の土楼、広東省の囲龍屋、台湾の三合院など、集合家屋が多いことで知られています。実はこれらの家屋は日本とのかかわりが少なくありません。客家の伝統集合家屋と日本との知られざる関係に迫ります。

日本とゆかりの深い台湾屏東県の集合家屋
(河合洋尚撮影、2018 年)

■みんぱくウィークエンド・サロン――研究者と話そう

「客家料理の世界」

会　　場	国立民族学博物館 本館展示場(ナビひろば)
日　　時	9月29日(日)14:30～15:15
話　　者	河合洋尚（東京都立大学准教授） 奈良雅史（国立民族学博物館准教授）
定　　員	なし(ご自由に参加いただけます。)
参加方法	要展示観覧券(イベント参加費は不要)
内　　容	中国料理の１つに客家料理と呼ばれるジャンルがあります。客家料理は、客家という人びとの特徴的な食ですが、脂っこい肉料理から、辛い麺料理、日本食に近い料理まで、実にバラエティに富んでいます。最近は日本でも客家料理が売られるようになってきました。客家料理とは何かについて迫ります。

福建省の客家地域における伝統的な刺身食

「徐福と日本の客家」

会　　場	国立民族学博物館 本館展示場(ナビひろば)
日　　時	11月10日(日)14:30～15:00
話　　者	奈良雅史（国立民族学博物館准教授）
定　　員	なし(ご自由に参加いただけます。)
参加方法	要展示観覧券（イベント参加費は不要）
内　　容	日本の客家に特徴的な文化のひとつとして徐福信仰が挙げられ、徐福の墓への参拝などが行われています。徐福は秦の始皇帝の命を受けて不老不死の薬を求め東方に出航したとされる人物です。徐福信仰をめぐる東アジアの交流史から客家と日本の関係について迫ります。

徐福の里とも言われる三重県熊野市波田須町にある徐福の宮

■ワークショップ

「食べるお茶――擂茶（れいちゃ）づくりで学ぶ客家の暮らし」

会　　場	国立民族学博物館 本館企画展示場ほか
日　　時	9月16日(月・祝)、9月23日(月・祝) 各日2回実施 ①10:45～12:45(受付開始 10:15) ②14:15～16:15(受付開始 13:45)
講　　師	松本学（松茶商店代表） 河合洋尚（東京都立大学准教授） 奈良雅史（国立民族学博物館准教授）
定　　員	各回 10名
参加方法	事前申込制(先着順)/参加費500円(大学生、一般の参加者は別途要展示観覧券)
内　　容	展示場で企画展「客家と日本――華僑華人がつむぐ、もうひとつの東アジア関係史」の展示解説を本館教員が実施し、その後、職員食堂で館外講師の指導の下、擂茶づくりを体験し、それを味わうことをとおして、農業や移動に特徴づけられる客家のくらしと食文化についての理解を深めます。

客家擂茶(画像提供　松茶商店)

■友の会講演会

「台湾客家と日本――20世紀前半を中心に」

会　　場	国立民族学博物館 第５セミナー室
日　　時	9月7日(土)13:30～15:00(開場13:00)
講　　師	河合洋尚（東京都立大学准教授）
定　　員	90名
参加方法	友の会会員、キャンパスメンバーズ：無料、一般:500円、事前申込制(先着順) ※友の会会員に限り、オンライン配信あり
内　　容	1895年に台湾が日本の領土となった後、現地の客家社会は大きく変化しました。台湾の客家地域では新たな産業が導入・促進され、人々の移動が加速し、日本風の地名に改称されるなど、その景観は移り変わりをみせていきます。他方で、客家の子弟は日本語教育を受け、日本の技術や文化を学んでいきます。日本へ留学や移住をする客家も増えました。20世紀前半を中心に、台湾客家と日本の知られざるつながりを解説します。

台湾花蓮県の客家居住地にある旧日本人移民村の寺院(河合洋尚撮影、2024年)

みんぱく創設50周年記念企画展
「客家と日本――華僑華人がつむぐ、もうひとつの東アジア関係史」
広報用画像リスト

【1】1930 年代の台湾における客家の夫婦
（出典『台湾写真帖』、南天書局提供）

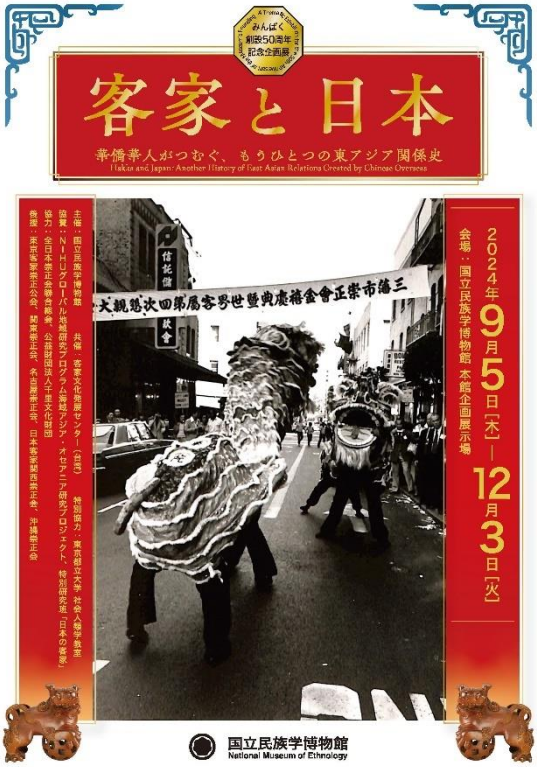
【2】日本に渡った祖先が多い客家伝統民居
（河合洋尚撮影、2004年 広東省梅州市梅江区）

【3】日本とつながりが深い福建省の円楼
（河合洋尚撮影、2005年 福建省永定県）

【4】日本統治時代初期の台湾客家
（台湾客家文化発展センター提供）

【5】台湾客家の農作業風景
（李雲秀撮影、台湾客家文化発展センター提供）

【6】入口用魔除け（鎮門獅）H0328079



【7】企画展チラシ

これらの広報画像はデータにて提供可能です。
ご入り用の画像があれば、総務課広報係まで次頁申込用紙にてお申し込みください。
資料名につきましては、展示場での表記と異なる場合がございます。

みんぱく創設50周年記念企画展
「客家と日本――華僑華人がつむぐ、もうひとつの東アジア関係史」
広報用画像リスト

【ご希望の画像番号】

【貴社・貴機関についてお知らせください。】

貴社・貴機関名	媒体名
ご担当者名	所属部署
ご住所　〒	E-mail
電話番号	
ご掲載・放映の予定日　　年　　月　　日	

【プレゼント用招待券】（ご希望の場合はどちらかにチェックを入れてください）

☐ **３組６枚**　　☐ **５組１０枚**

※チケット発送先が上記所在地と異なる場合は、下記にご記入ください。

発送先　〒

【広報に関するお願い】

■　写真使用に関するお願い、注意事項

・クレジットには次のとおり記載してください。

【1】南天書局 提供

【2】、【3】、【6】国立民族学博物館 提供

【4】、【5】台湾客家文化発展センター 提供

・写真(画像)のトリミングや文字乗せはご遠慮ください。

・作品写真の使用目的は、本展の紹介のみとさせていただきます。なお、本展覧会終了後の使用はできませんのでご了承ください。

■　本館の基本情報等の確認のため、E-mailまたはFaxにて、掲載記事、番組内容の原稿等を下記連絡先へお送り願います。

■　お手数ですが、掲載紙・誌または録画媒体を2部お送りください。

［お問い合わせ］　国立民族学博物館　総務課　広報係
〒565-8511　大阪府吹田市千里万博公園10-1
Tel:06-6878-8560(直通)　　Fax:06-6875-0401　　E-mail: koho@minpaku.ac.jp
プレス向けウェブサイト:　www.minpaku.ac.jp/press